

令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

福井市啓蒙小学校

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

- ・啓蒙公民館長(1)・啓蒙自治会連合会長(1)
- ・青少年市民会議啓蒙支部長(1)
- ・啓蒙地区青少年育成会長(1)
- ・もみじ児童館長(1) ・啓蒙保育園長(1)
- ・PTA会長(1)
- ・校長(1)・教頭(1)・教務主任(1)

※地域コーディネーター(4名)

- 啓蒙公民館長 啓蒙自治会連合会長
- 青少年市民会議啓蒙支部長
- 啓蒙地区青少年育成会長

(2) 協議会の内容

- ※開催回数 3回
- ※開催日程 6月26日 11月9日 2月19日
- ※協議内容
 - ア 教育方針と取り組み
 - イ 年間の活動予定
 - ウ 地域から学校への支援
 - エ 学校公開による提言
 - オ 学校評価
 - カ 本年度の反省と次年度の課題

(3) 協議会における成果と課題

協議会の委員は学校の教育活動に大変協力的であり、スクールプランや学校評価の内容についても理解と支持を示してくれた。また、児童の安全面にもよく配慮してくださり、見守り活動や交通安全指導の協力要請、安全マップの更新等に積極的に取り組んでいただいている。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

- ・啓蒙地区の宝(伝統行事・自然・人物・街並み等)について、児童が主体的に調べる活動を通して、啓蒙地区のよさや課題を見いだす。
- ・啓蒙地区のよさを伝えたり、課題を改善したりする活動を通じて、啓蒙地区を受け継ぐ者としての実践力を高める。

(2) 活動の実際

①「広げよう ふれあいの輪」(4年生)

4年生は、総合的な学習の時間に「福祉」の視点から話し合い、「高齢者や身体に障害をもつ方がどのような思いをもちながら生活をしているのか、安心して生活するためにはどうしたらいいのか」という課題を見つけ、福祉に携わる方から話を聞いたり、高齢者や障害をもつ方の疑似体験をしたりしながら探求するという計画を立てて、学習に取り組んだ。

- ・地域にある大東包括支援センターの方を招き、認知症サポーター養成講座に参加した。お年寄りの方の言動の特徴や認知症について理解を深めるなど、人々が安心して生活できるための手立てや工夫について理解を深めた。
- ・男女共同参画推進事業の一環として地区の推進員を招き、男女共同参画についての話を聞いた。ほとんどの職業が男女関係なく働けることや男女で助け合いながら生きていくことの大切さについて理解した。



- ・高齢者の身体の不自由さや視覚障害者の生活上の不便さを、高齢者疑似体験の用具や点字ブロック教材を活用しながら体験した。グループごとにポスター等にまとめ、発表をしながらお互いに理解を深めた。加齢に伴う心身の変化と特徴、視覚障害による生活の困難と介護の大切さを理解し、身体にハンディをもつ人たちの気持ちを理解しながら自分たちにできることは何かを考える機会となった。



②「食べ物のひみつをさぐろう」（3年生）

3年生は、総合的な学習の時間に「地域の食材や文化」の視点から話し合い、「地域にはどのような伝統食材があり、どのように作られているのか」という課題を見つけ、地域の方から話を聞いたり、地域の食材の栽培をしたりしながら探求するという計画を立てて、学習に取り組んだ。

- ・地域の方をボランティアとして招き、「新保ナス」の栽培や調理に取り組んだ。ナスに込められた地域の方の思いや願いを学び、自分たちが新保ナスを地域の宝として未来に受け継いでいきたいという思いを高めることができた。



（3）地域コーディネーターの活動概要

- ・4年生「広げよう ふれあいの輪」では、地域の包括センターの方や男女共同参画推進員と児童の活動のコーディネートをしていただいた。
- ・3年生「食べ物のひみつをさぐろう」では、新保ナス作りに取り組む方々や新保ナスの調理を指導して下さるボランティアの方々と児童の活動のコーディネートをしていただいた。

（4）特に工夫した事項

「地域で課題を見つける」「地域の方から学ぶ」「地域とのふれあいを大切にする」というような点を意識して活動を組み立てた。そして、地域コーディネーターやボランティアの方々をはじめとして多様な地域人材の方々から、直接学ぶ機会を多く設定するとともに、自分たちの考えや取組の成果を発表しながら理解を深めることができた。

（5）成果と課題

児童は、身近な地域にある素材や地域の多様な人材から直接学ぶことができ、自分たちが生活する地域の価値や可能性を再確認することができた。また、福祉体験、野菜の栽培・収穫と調理、味噌作りといった体験活動をしながら、さまざまな人々の願いや苦勞、仕事にかける生きがい等について理解を深めることができた。ただ、地域社会へ積極的に参画したり成果を発信したりするという活動も大切であるので、活動計画を見直し、そのような機会をつくっていくようにしたい。